

2021年度

# 学生が選ぶベストティーチャー賞

## ベストコメント賞発表



2021年度「学生が選ぶベストティーチャー賞」に、ご投票いただいた皆様ありがとうございました。いただいた投票の中から、8件の投票理由を「ベストコメント賞」として選出いたしました。ぜひご覧ください。

正直、この2年間で履修した法学部専門科目の中で最も難しい内容であった。難しい教科書やレジュメの内容を事前に予習した段階では、理解度は非常に浅かった。しかし、授業で判例の説明などを現実の行政問題などと織り交ぜながら易しい言葉で解説してくださったので、授業を受けた後は教科書やレジュメの内容に納得することができた。また、出席扱いとなるzoomの接続時間が厳密であったので、公平だったことはもちろん毎週決まった時間に対面授業と近い形式で授業を受けることができた。毎回、授業中に2回アンケートテストが実施され、それも成績評価に繋がっていたので、家で授業を受けていながらも緊張感を持ちながら集中して授業を受けることができた。

学期中に行われる小テストでは、事前に範囲を提示してくださったので、しっかり復習してからテストに臨むことができた。時間をかけてテスト対策をしても、テスト時間が非常に短い上に訊かれる内容も難しかったので、しっかり勉強しなくてはならないというモチベーションの向上や、学力の向上につながった。

毎週の授業後に、授業動画を学習支援システムに公開してくださったので、何度も動画を見返して復習することができたのも非常に良かった。とても難しい授業内容だったが、ためになる授業を聞いたので、履修してよかったと思えた。

難しい内容でも、やる気を引き出し、取り組めることが出来た理由がよく分かります！



Best  
comment  
award



先生に投票した最大の理由は、先生のご経験と知識による授業内容の深さが魅力的だからです。

先生がご担当の「空間デザイン論」では、都市や建築、アートといった様々な分野で論じられている「空間」を、講義とフィールドワークを通して多角的に理解し、空間デザインを表現・伝達する理論的かつ実践的な方法論を学びます。美術館巡りが趣味の人、おしゃれな建築物に心惹かれる人、近代社会の歴史や街歩きが好きな人などは、まず履修してみることをオススメします。ちなみに私は、もともと空間デザインに興味がありましたが、正直、「これを履修すると休日の土曜が授業になるのか」と思っていました。しかし、仮登録期間（いわゆるお試し期間）の初回講義を受けた瞬間、「講義が面白い！！」とビビッと来てしまい、即履修を決めました。先生は、一級建築士かつ学芸員であり、これまでに都市開発や展覧会の企画・設計・デザインを数多く手がけてこられました。そのため、例えば、講義では、普段絶対知ることができない美術館での作品展示の舞台裏などを知ることができます。さらに、写真が多めのスライドを用いたお話の中では、美術や建築の世界で有名なアーティストたちについても詳しくご紹介していただきます。「空間デザイン論」は、2コマ連続の講義ですが、ワクワクしつつ知識も得られるため、200分はあっという間です。

フィールドワークでは、森美術館や京都市京セラ美術館に行きます。展覧会を主催する側の先生がガイドしてくださるため、美術館の見方が変わります。もちろん、作品を見て学ぶことも多いのですが、美術館の照明や空間がどうデザインされているのかについても目を向ける事になります。フィールドワークは、大学生らしい講義形態であり、先生のガイド付きという大変貴重な機会なので、改めてこの講義の履修を推奨します。

実際に履修してみたいくなる、魅力的な授業ですね！



先生が勉強に関するだけでなく、ニュースやご自身の専門分野に関する話題を授業内で取り上げて私たちに話して下さるので、とても丁寧に授業をして下さったことが印象的でした。授業ではプレゼンテーションの仕方やレジユメの作り方などの勉強のこと以外にも、課題図書感想発表会で一人一人の話を親身に聞いて下さり、それぞれにコメントをしていただきます。そのおかげで、私は勉強する意味や、日常の常識(生物多様性を保護すべきということや、核兵器を廃絶すべきなど)を自然と考え直すようになり、より豊かに日々を過ごすことができるようになったと感じています。また、ゼミの相談にも親身に乘って下さり、日頃の大学生活中の悩みも安心して話すことの出来る先生です。

先生が研究休暇で来年いらっしやらないのは残念ですが、私が3年になって先生が法政大学に帰ってこられた際には、ぜひ先生の授業を受けて、もっと沢山先生のお話を聞かせていただきたいです。1年間、本当にありがとうございました。

もっと先生のお話を聞きたい…  
という気持ちに共感できました！



Best comment  
award

先生は非常勤講師ですが、今まで会ったどの常勤講師よりも真面目で、生徒のことを考えている私の尊敬している先生です。私は留学生であり、日本にいるものの週に一回のこの授業以外には対面授業がないため、友達ができません。それを知った先生はわざわざ授業を対面授業にすることにしました。(本人によるとそれは対面授業にした理由の半分です)(今でも対面授業は一個しかありません)

また、先生は生徒一人ひとりの独立思考を重視し、学生に自分や社会の価値観を押し付けないことを心がけています。学生たちが議題について否定的な意見が出ていてもすぐには否定せず、論理的に考えられるように導いて行く姿に教育者としての熱意、使命感を強く感じました。コロナにより、私が受けているほとんどの授業の質が大きく下がるのが現状です。にもかかわらず、先生は授業の質を維持しており、授業を受講するたびに新たな知識を学んだと強く実感しています。

さらに、授業以外の質問などにも対応してくださって、本当に学生のことを考えています。

私は、先生は真の教育者のあるべき姿だと考えます。

学生のことを第一に考えてくれる上に、コロナ禍でも落ちない授業の質。先生の授業を受けたい気持ちになります！



この講義は今年、最も私が成長できた講義であり、先生に金メダルをあげたいと思う。この講義では実際にフィールドに出向いて調査・研究を行うものであり、経験の乏しい私にとって右も左もわからなかった。そこで先生から研究テーマの設定から調査内容、調査依頼状の作成など多岐にわたって指導いただき、作業を進め、実際に調査した際には現地の人に好評をいただくことができた。印象に残ったエピソードは、他に班員もいたが、私の相談に乗っていただくために個別にズームをしていたり、研究を突き詰めていく上で悩みができた時にアポなく先生の研究室を訪れても丁寧に相談とアドバイスをいただいた。また、書類の確認においても何度もメールで確認や綿密な連絡を取らせていただき、有意義な調査研究ができた。

先生は他講義を週に複数持ち、作業が多くあるはずであるにもかかわらず、経験が乏しく時に緊急事態にも陥った私を救い、かなりの経験をさせてくれた先生だと思いベストティーチャーに選ばせていただいた。

先生の丁寧で綿密なアドバイスが「緊急事態」を救い、成長させてくれたことが伝わってきます！





Best comment  
award



受講者に寄り添う形で授業が進行されており、かつ授業に関わる内容であるかを問わず生徒の質問に対し誠実に答えてくださり、「学生の知識の取得と主体性・思考力の上昇」を促すという、大学機関が担うべき役割の一つに貢献していらっしゃいます。

具体的には、毎授業のリアクションペーパーには質問・感想を記入する欄があり、それは毎度次回の授業に一枚のレジュメにすべて取り上げられ回答してくれます。また、受講者の理解を確実なものにするために、質問はないかどうかを授業時間内に頻繁に聞いてくださいます。それだけでなく、講義内容について受講生に問いかけを行うことにより、受講者の想像力や思考力を促すだけでなく、間違っていたとしてもお咎めはなく、一緒に正解にたどり着けるよう、その思考の一つずつステップを踏むような形で優しく指導して下さります。

個人的な話ですが、ある日授業時間後に「哲学や倫理に興味がある」と話したところ、なんとその夜にGmailで参考書を提案して下さりました。学習者の知的好奇心を育む精神はまさに教育者の鑑であると言えます。

授業内容だけではなく、実体験からも、先生のお人柄が強く伝わってきました！



学生一人ひとりと真剣に向き合い「学びたい！」という学生の意欲をしっかりと受け止めてくださる先生でした。授業後の雑談のときなどに「この内容に興味を持った」「こういうことを学びたいと思った」というような話をした際、その内容を講義で付けたして下さったり、その日の講義でやった内容以外の質問も一つひとつ詳しく丁寧に教えてくださっている姿がとても印象的で「自主的に学ぶ」という大学ならではの学びをしっかりサポートして下さっているなという感じがしました。先生の授業を1年生という大学生活スタートの時期に受けることができたからこそ、大学での学びの楽しさや希望、「学ぶ」ということ自体の面白さを知ることができ、本当に良いスタートがきれたと思います。また、文化人類学の授業を通して、多角的に物事をみる大切さやマイノリティの立場にたって物事を見てみる必要性を改めて学ぶことができました。課題やレポートのフィードバックをしっかりやってくださるので、この文化人類学の授業以外にも繋がられるような学びができたと思います。

学びたいという気持ちに  
しっかり答えてくださる  
先生ですね！



## Best comment award



私は法学部に在籍しているのですが、成績優秀者の他学部科目履修制度という制度を通じて、この秋学期に理工学部の先生の授業を履修させていただきました。理工学部の授業を履修するのは初めてだったので、事前にかなり時間をかけて授業の予習を行った上で履修したのですが、それでも高校三年生の時以来長らく本格的な数学には触れていなかったため、やはり不安な部分がありました。

しかし、理系の学生の方々が学んでこられた高校時代の数学Ⅲや大学初年度の微分積分学を先生が授業中にとりどころを振り返りながら、ゆっくりと丁寧に数式の意味を解説してくださったおかげで、難しい数式に遭遇してもそれほど時間をかけずに理解することができました。今年はコロナ禍の状況であったため、この授業もほぼオンラインで展開されていましたが、講義資料に多くの色彩、矢印、補足情報やグラフ等を加えながら数式の説明をしてくださって、視覚的にもとても見やすく、「なるほど！この下の数式のこの部分は、この上の数式のこの部分に対応しているのか！」とすぐに気づくことができました。

対面授業の際にリアルタイムで黒板に書き込みを行ってくださる先生方も多いと思いますが、オンラインであっても画面に共有された資料の中にリアルタイムで文字・グラフ等の補足情報等を書き込んでくださる先生のような教員に、私は今までに出会ったことがありませんでした。オンラインであっても、学生にとって理解しやすくなるように「画面上の資料への書き込みなどの工夫」を行ってくださったのはとてもありがたかったです。やはりリアルタイムで資料に書き込みなどの装飾を施してくださると、私たち学生側も実際に手を動かすことになるので、授業内容が理解しやすいように感じました。

AIやプログラミングが普及している現代において、情報処理や理工学系の素養が要求される場面はより増えていくと思いますし、この授業をきっかけに数学をもっと学んでみたいという思いも強くなったため、大学卒業後も、独学や通信教育等でより幅広い理学分野の知識を習得していきたいと考えています。

授業内容やご自身の感想から、どのような授業なのかが良く伝わります！



※上記コメントは、基本的に投票いただいたコメントをそのまま掲載していますが、一部修正を加えています。

主催：教育開発支援機構「学生が選ぶベストティーチャー賞」実行委員会

